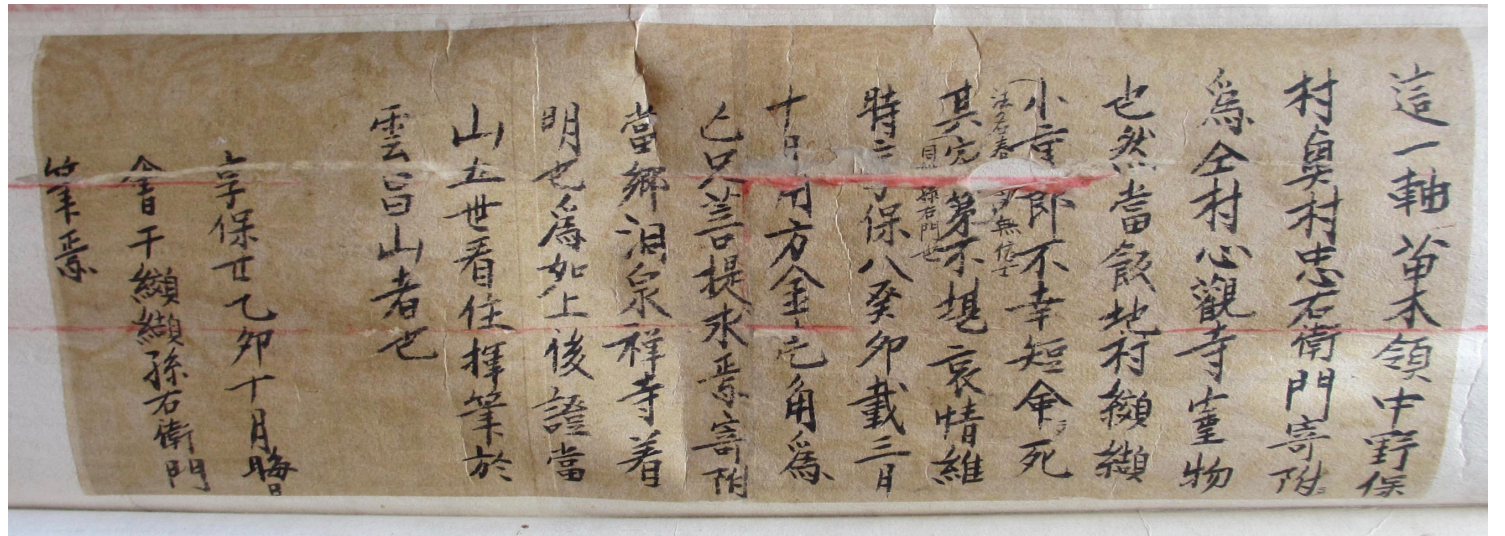


# 自法寺涅槃図由緒 解題



## 【原文】

這一軸苗木領中野保村奥村忠右衛門寄附為全村心觀寺室物也然當飯地村瀨瀨小重郎不幸短命死（法名春○無信土）其○弟不堪哀情維（同○孫右門也）時享保八癸卯載三月十日用方金壺角為○只菩提求焉寄附當鄉洞泉禪寺着明也為如上後證當山五世看住揮筆於雲昌山者也

享保廿乙卯十月晦日  
全日干瀨瀨孫右衛門  
筆焉

## 【読み下し】

這一軸は苗木領中野保村、奥村忠右衛門の寄附にして、同村※心觀寺の宝物と為す也。

然れども當飯地村、瀨瀨小重郎（法名春○無信土）不幸短命にして死す。其の○弟（同○孫右門也）、哀情堪えず、維の時、享保八癸卯（みずのとう、一七二三）年三月十日、方金壺角を用い、右ぎ只だ菩提と為して焉れを求め、當郷※洞泉禪

寺に寄附し明らかに着す也。上の如く後の證と為し、當山五世看住、※雲昌山に於いて揮筆する者也。

享保廿乙卯（きのとう一七三五）十月晦日

全日干瀨瀨孫右衛門、焉に筆す。

## 【用語解説】

※心觀寺Ⅱ中野方に存した雲林寺末寺。明治廃仏毀釈により廃寺。のち同地に真宗大谷派靈仙寺が明治一三年に建立さる。

※洞泉禪寺Ⅱ雲林寺末寺。八世大同巨益代の明治三年廃寺。

※雲昌山Ⅱ雲松山の間違いか？ 洞泉寺の山号。五世は養山祖育。